

# 派遣切りが奪う学びの場

B/2 A

「派遣切り」が、子供たちの生活を脅かしている。経済危機で親が派遣先の職を失い、教育機会を奪われかねない子供が増えているのだ。教育格差は、将来の所得格差につながりかねない。親から子へ「貧困」が引き継がれる構図は変わるのか。（佐藤章）

さいたま市の東武鉄道・岩槻駅近くに汚れが目立つ白壁の2階建てアパートがたつ。昨年暮れまでワンルーム10部屋のうち5部屋を埼玉県川越市の人材派遣会社が借りていた。曙ブレーキ岩槻製造や藤倉ゴム工業の工場で働く派遣労働者の「寮」にしていた。

部屋は今では1室だ。解約された部屋のうち3室には、小学生がいた。1人は3年生男子。その母親が今年1月、学校の担任に連絡を入れた。

「会社から解雇されたので別のところに移りました」

母親は派遣労働者をしていて、昨年6月に転校してきたばかり。「この小学校は3校目だ」と言っていた。ランドセルではなく、肩からかけるズック製のかばんをさげ、月の半分は学校を休んでいた。

## 小学校6校目

別の部屋にいた6年生女子と4年生男子の姉弟は6校目だった。在校は07年9月から1年間。3室目の6年生男子も昨年3月に転校してきて同7月に去った。クラスで開いたお別れ会で男子は「この学校では友達ができて本当によかった」と、泣いてしまった。

## 数カ月で転校「教えようがない」

「うちの学校に在る間は大事にしてあげたい。だが、母親の仕事が変わって数カ月で転校してしまつたら、教育のしようがないでしょう。教諭は嘆く。

いま藤倉ゴム工業などは自動車メーカーの減産の影響を受ける。曙ブレーキ工業は、子会社の曙ブレーキ岩槻製造を含め、グループ全体で一時500人近くいた派遣社員を3月末までにゼロにする。数カ月で転校を迫られる子供たちは、ほかにい

## 支援相談倍増

さいたま市子育て支援課内の母子自立支援員に対する相談は昨年1月では376件だった。今年1月は687件。経済的支援や仕事探しの相談が増えているという。

「派遣切りは母子家庭にとつて、とくに厳しい。家賃が払えず、ホームレス化する母子が増えるのでは」と心配するのは、

母子家庭の母親でつくる「しんぐるまざあずふおーらむ関西」の担当者だ。

「子どもの貧困」（岩波書店）の著者、国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩さんは、家庭向け援助などの政策対応が不十分だと指摘する。子供17人に1人は母子世帯に育つ。阿部さんは「派遣切りにあつた母子家庭の子どもは十分な教育を受けられなくなる可能性が高い」。

文房具代や給食費などの公的援助を受けている生徒の割合（就学援助率）は、東京都千代田区で1割以下だが、足立区では4割前後。04年度学力調査の中学校2年の数学の平均点は23区内でトップの千代田区に対し、足立区は最下位だった。足立区の小学校教諭は昨夏の七夕の時に「お父さんに早く仕事が見つかりますように」という2年生の短冊を見つけた。そんな短冊がどれくらい目につくか、今年の七夕が心配で仕方がない。



さいたま市子育て支援課の相談窓口。相談件数が倍増している＝同市役所、福岡亜純撮影